

● 第Ⅱ章 ●

「親の学習」プログラムの の手引き

親の思い・子の心

1 本時の目標

子供の立場から、親の思いを考えるロールプレイングを通して、親の思いや家族について考えることができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
積極的に親子の関係について関心を持ち、親の立場について考えようとしている。	ロールプレイングを通して親の思いや立場について考えている。		

3 展開例（時間：50分）

時間(分)	生徒の活動	教師の働きかけ（○）・評価（☆）
10	<p>○最近の親への思いを考え、発表する。</p> <p>○エピソードを読む。</p> <p>○智子と智子の母親の気持ちを考える。 (ワーク1)</p> <p>課題設定</p>	<p>○最近あった家族での会話を思い起こし考えさせる。</p> <p>テストの結果を見せた時や学校での出来事を話したときなどを思い起こさせると、親に対する反発などの気持ちが多いと思われるので、その気持ちを主人公への共感としてつなげたい。</p> <p>○素直に思ったことを書かせる。</p>
	<p>— 学習課題 —</p> <p>子供の立場から、親の思いを考えるロールプレイングを通して、親の思いや家族について考えよう。</p>	
15	<p>○各班で、エピソードの続きの会話を考える。 (ワーク2)</p> <p>○班で登場人物を分担し、考えた会話をロールプレイングで演じる。考えた会話以降は自由に会話を進める。</p>	<p>○各班で考えたエピソードの続きを、役割を決めさせ演じさせる。時間を決め、考えた会話の続きをそれぞれの役割になりきって自由に進めさせる。</p> <p>☆ロールプレイングを通して親の思いや立場について考えている。（思考・判断・表現）</p> <p>▼努力を要する生徒への手だて →それぞれの立場になりきって思ったことを発言させ、ロールプレイングを進めさせる。</p>

5	○ロールプレイングをやってみての感想を書く。 (ワーク3)	○それぞれの役割を演じてみての感想を書かせる。観察している人は友達がやっている様子を見て、感じたことを書かせる。
5	○各班のロールプレイングを発表する。	○各班の発表を見ながら、自分たちの班との違いを考えたり、それぞれ演じた以外の人の立場になって考えたりしながら聞くようアドバイスをする。
10	○個人でそれぞれの立場になって考える。 (ワーク4)	○今までの活動からそれぞれの立場になって考え記入させる。 ☆積極的に親子の関係について関心を持ち、親の立場について考えようとしている。 (関心・意欲・態度) ▼努力を要する生徒への手だて →今までの活動を振り返らせたり、自分の経験を振り返らせたりして、それぞれの立場になって考えるようアドバイスをする。
5	○「ふりかえり」を記入する。 (ふりかえり)	○各自の家族について考え、今日の学習を通して考えたことや思ったことを素直に書かせる。 ○時間があれば、何人かの生徒の感想を発表させる。

4 指導上の留意点

- ※ロールプレイングを行うことによって、それぞれの立場になって考えることができたり、自分とは違った考え方を理解することができたりする効果が期待できる。
- ※50分(1単位時間)で考えた事例になっているが、学校の状況や進め方によっては100分(2単位時間)でじっくり取り組ませることもよいと思われる。
- ※ワーク1を省略してロールプレイングを行ったり、ワーク4の項目をいくつか省略したりして進めると時間短縮ができる。
- ※エピソードは『彩の国の道徳「自分を見つめて」』からのものなので、資料1の抜粋や全文を使うこともできる。また、エピソードには出てこない父親を登場させてロールプレイングを行ったり、資料2を使って親子関係についてさらに話し合いをしたりすることで話し合いを深めることもできる。
- ※『彩の国の道徳「自分を見つめて」』の「何だっていいんだぁ」の資料を使い、資料を前後半に分けて考え、エピソードと同様にロールプレイングをしたり、その時の親子の気持ちについて考えたりしながら父子の関係についても話し合うことができる。資料2などから父親と母親の役割などに着目して、話し合いを進めることもできる。